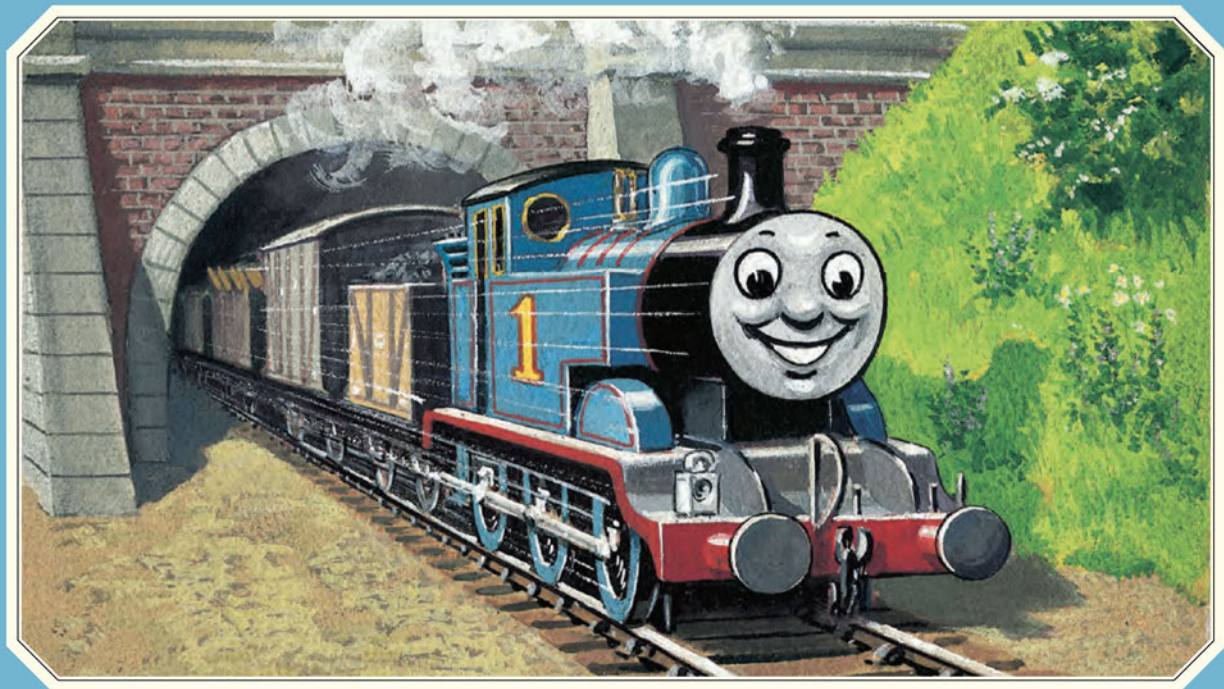


新・汽車のえほん②

# 機関車トーマス



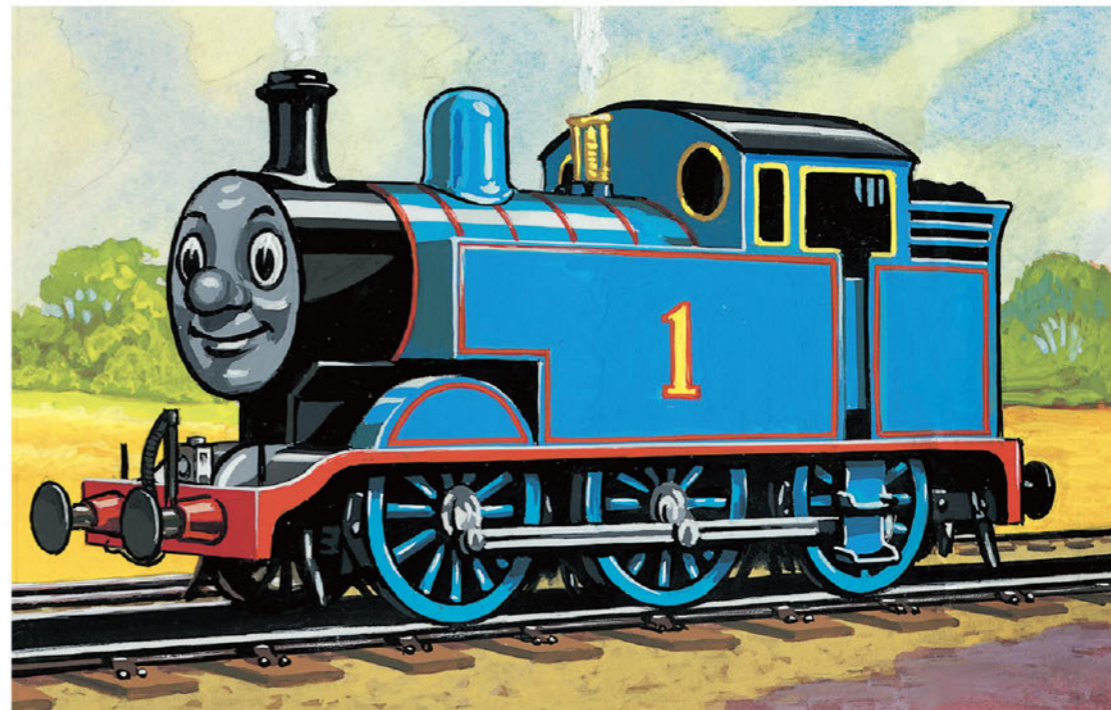
ウィルバート・オードリー (作) レジナルド・ダルビー (絵) 桑原三郎・清水周裕 (訳)

## トーマスとゴードン

タンク式機関車のトーマスは、大きな駅で はたらいていました。

トーマスには、6つの小さな車輪と、ずんぐりむっくりの  
えんとつと、かまと、たんこぶのようなドームが ついています。

小さなトーマスのやくめは、とおくへ いく 大きな機関車の客車を  
そろえたり、お客の おりた からっぽの客車を ひっぱったり  
することです。

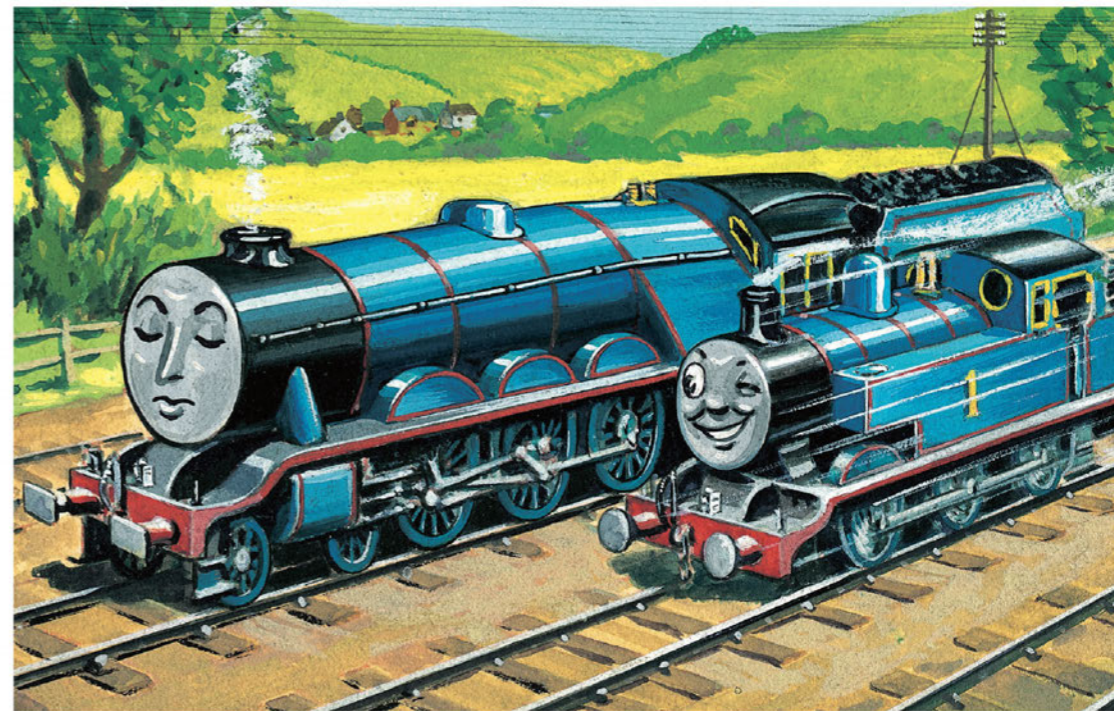


トーマスは、いたずらな ちびっこ機関車です。

よく はたらくのは じぶんだけだと おもっていましたが、  
たいひ線<sup>せん</sup>で いねむり<sup>いねむり</sup>をしている 大きな機関車<sup>おほきかんしゃ</sup>を みつけると、  
そっと ちかづいては、

「ピッピッピー、ピッピー。なまけもの、おきろ。ぼくみたい  
はたらくんだ」

と、びっくりさせて、よろこぶのです。



ある日、ゴードンは、急行列車のおくれをとりもどそうと、  
力いっぱい はしってきました。くたくたになつて、たいひ線  
うとうとしていると、トーマスが、そつと ちかづいてきました。  
「ピッピッピー、ピッピー。なまけもの、おきろったら。たまには  
しっかり はたらけよ。くやしかったら つかまえてごらん！」  
ゴードンは、もう くやしくて、くやしくて、ねむるどころでは  
ありません。

